

## 淀屋橋と大江橋

写真上は朝日新聞 4 月 14 日夕刊 1 面。14 日午前 9 時すぎ、閑散とした土佐堀川にかかる淀屋橋。これまでの平日、この時間帯なら淀屋橋を行きかう人で一杯であった。

新型コロナウイルスの感染拡大で、外出自粛が進んだ結果、ホームレスの人たちが路上で販売して収入を得る雑誌「ビッグイシュー日本版」の売り上げが急減している。発行元は、収益を販売者に分配する緊急の支援策として、3 カ月間限定の通信販売に乗り出した。

9 日から呼びかけると、支援の輪が広がり、申し込みはすでに 4 千件を超えたという。

写真下は市役所の帰りに撮った堂島川にかかる大江橋。日本銀行や市役所、橋の向こうには大阪弁護士会館の黒い建物が見える。

原発賠償関西訴訟公判後の「報告集会」でよく行くところだ。

淀屋橋と大江橋について、『北区史』に次のように解説されている。

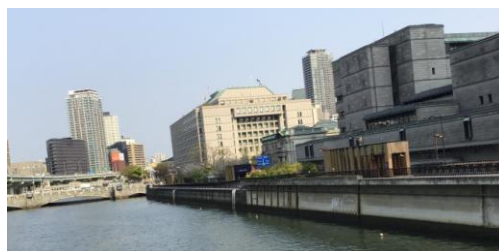
淀屋橋は、江戸時代の豪商、淀屋に由来する。寛永年間(1624-44)末に二代目个庵が淀屋の米市に集まる人たちの便をはかってかけたという。

大江橋は、これよりおそく堂島の開地とともに貞享年間(1684-88)にかけられた。旧大江の岸といわれたことにちなみ、名づけられた。

両橋とも明治 18 年の洪水で流失後、鉄骨、鉄柱に改造され、幅員は五間(9 間)で、人道、馬車道に区分けされた。大江橋は 42 年 7 月の北の大火のさいも焼失、陸軍工兵隊の手ですぐに仮橋がかけられた。

現在の淀屋橋と大江橋は、ともに昭和 5 年 5 月、地下鉄工事と同時に着工し、10 年 5 月に完成したが、付近に建ち並ぶ市役所、日本銀行、図書館、公会堂などのクラシック建築や景勝との調和、都市美の構成に万全を期した。意匠、設計を全国から公募、入選した大谷龍雄のデザインをもとに、武田五一博士が南欧中世紀の様式を加えて仕上げた。

地盤の軟弱な大阪市には不向きとされる鉄筋コンクリート橋にしたのも、落ち着いた感じを出すため、そのためには強固な基礎がためをする必要があり、両橋ともとくに多くの長柱を打ち込んだ。工事中の昭和 6 年 4 月には、淀屋橋の北橋台工事で、突然川の締め切りが決壊する事故があった。



(2020 年 4 月 19 日)